

第47号

2016. 3. 20

日本歯科技工士連盟機関紙

れんめい

発行 日本歯科技工士連盟
東京都新宿区市谷左内町 21-5
歯科技工士会館内

発行人 衛 藤 勝 也

編集 日本歯科技工士連盟

歯科技工士という仕事を社会にPRする取り組みを

歯科技工士に関する制度推進議員連盟・秋元司議員に聞く

本誌の継続企画であった歯科技工士に関する制度推進議員連盟（以下、議連）役員への杉岡範明会長によるインタビューは、本誌41号掲載の議連会長・上川陽子議員から始まり、本年1月に発行した46号の議連筆頭幹事・福岡資麿議員へのインタビューにより当初の企画を終えました。次なる企画として、議連所属議員と都道府県技連盟との交流支援を目的とした新たなステージに入ります。

その第一回として今回、東京都江東地区歯科技工士連盟による秋元司議員へのインタビューを実施しました。その後の担当者による感想とあわせ、興味深い内容となりました。

皆のために頑張る

久木野副理事長（以下、久木野） 本日はお忙しい中、お時間をつくっていただきまして誠にありがとうございます。よろしくお願ひいたします。

秋元議員（以下、秋元） こちらこそ地元でいつも大変お世話になっております。ありがとうございます。

久木野 それでは早速始めさせていただきます。まず秋元先生が政治を志されたきっかけを教えてください。

秋元 若い頃なので記憶が曖昧な部分もありますが、そもそも私が政治に興味を持ち始めたのは、小学校の5年生か6年生の頃でした。

当時の風習として、いわゆる学級委員長をクラスで決めるにあたり、4年生頃までは、例えば勉強ができるとかスポーツが得意だとか、何かの一芸に秀でた人が選ばれるケースが多かったのですが、5年生や6年生になると、クラスであまり目立たない子に押しつけるような風習になっていました。先生もそれを追認するような雰囲気があったので、私は妙に正義感を持ってしまったのです。「これじゃいけないだろう」と。それ以来、「じゃあ僕がやろう」ということで、自ら立候補して学級委員長や生徒会などをやるようになりました。

そのように当時、「皆のために頑張る」ということが忘れ去られつつあって、個人がどう生きるか、個人として何をやるかということばかりが雰囲気として主流になってきたことに違和感を覚えたことが、政治家を目指す一つのきっかけだったのではないかと思います。

久木野 先生は昨年行われた第9回東京マラソンに参加され、見事に完走されました。今年も参加される予定とのことですが、お忙しい中、どのように練習されているのですか。

秋元 結論から言いますと、練習していません。練習するということは、やはり走り込む

しかないと思うのですが、走り込んだらおそろしく怪我をするだろうという予感があるので。そのため、マラソンに向けての練習はせずに、ぶっつけ本番で当日を迎えました。

そうは言っても、まったく練習しないのもどうかと思いましたので、3日ほど前に靴を買って、歩いたりしながら道路に足を慣れさせていくという程度の練習はしました。

これまで2回出場し、毎回「本当に完走できるのだろうか」とハラハラしながら走っていましたが、今年は記念すべき第10回大会ということもありますので、今回をもってマラソンは引退しようかなと思っています。

久木野 サーフィンなどもされるスポーツマンの秋元先生は、自民党東京オリンピック・パラリンピック推進本部の役員として昨年10月にブラジルを視察されました。オリンピック・パラリンピック開催を1年後に控えたリオデジャネイロの様子はいかがでしたか。

秋元 それがリオでは、オリンピックを迎える都市としての盛り上がりかほとんどありませんでした。

私が訪問した時点で既にオリンピック開催まで1年を切っていましたが、施設もでき上がっていないし、以前から問題となっていた環境汚染も改善の兆しが見えませんでした。その結果、ブラジル国民の間にも、「本当にオリンピックやるの?」という雰囲気が蔓延しているというのが実際のところでした。

ブラジルの組織委員会に「大丈夫なのですか」と聞いてみたところ、リオのカーニバルも盛り上がりつつあるのは開催の2週間ほど前からだそうで、「そういう国民性なので、オリンピックも2週間ぐらい前から盛り上がりつつあるのではないか」とのことでした。そんな感覚を持っているんですね。

一方で、民間主導で世界中からオリンピックに携わった人間を事務局に集めていますので、事務局は皆、オリンピックを経験してきたプロフェッショナルの集団です。決して焦ることなく、問題点をしっかり洗い出して整理し



左から、鈴木隆夫日技連盟副会長、久木野正宣江東歯科技工士連盟副理事長、秋元司議員、金田順二江東歯科技工士会理事長

ていますので、オリンピックに向けた事務局として非常に進んでいる印象を受けました。

久木野 そうしたことを踏まえて、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、先生の地元である江東区にどのような構想をお持ちになりましたでしょうか。

秋元 やはり日本らしいものを打ち出したいですね。例えば新たに決まった新国立競技場の構想を見ても分かるように、日本の文化である木材を取り入れたスタジアムになります。

文化であると同時に「木材=エコ」ですから、そうしたことに力点を置いた施設をつくらせて、エネルギーの効率化という視点も入れながら、先進国日本らしい、環境に即した施設とオリンピック運営をどう世界に見せていくかという点が大事になってくるのではないかと思います。

久木野 先生は昨年11月、『子どもたちが危ない！スマホの現実』という本を出版されました。この本について教えてください。

秋元 私は以前、子どもの携帯電話使用に対し警告を発したことがありました。携帯電話が子どもに普及すると、子どもだけの世界ができあがって、そこに大人が入り込む隙がなくなってしまいます。それがきっかけで子どもがいじめに遭ったり、犯罪に巻き込まれたりという事例が後を絶ちません。そこで、子どもの携帯電話の持ち方を社会に提言したのです。

それから時代が進み、現在はスマホが主流になりましたが、まず自覚しなければいけないことは、スマホというのは普通の携帯電話と違い本当の情報端末であるということです。

そこで問題になるのがフィルタリングについてです。子どもに見せたくない有害情報を遮断するためにはフィルタリングというものをかけますが、ガラケーの時代は、例えばドコモであればiモードの回線にフィルタリングをかけさえすれば、ある程度は有害情報を遮断

できました。

それがスマホになると、キャリア会社の回線だけでなく、Wi-Fi回線であったり、通信アプリというものが出てきました。その結果、今、スマホでのフィルタリングの利用率は50%を切って47%台で、これからもっと下がるだろうと言われていています。そうすると、今まで以上に子どもは大人が関知できない世界に入っていくことになるのです。子どもたちがITと向き合うことは大切なことですが、成長段階に応じた向き合い方を考えていかなければいけません。

したがって、携帯電話の使用について、家庭や学校で使用時間に関するルールをつくることも必要だと思います。例えば21時以降は携帯電話に触らない、見ない。そうすることで、皆が触らないのだからLINEなどのSNSで「既読」になっているかどうか気にしなくて済みます。返事をしなくてもいい。そうすれば携帯依存症にもなりません。

この本は、そのようなルールづくりで社会全体で取り組んでいかなければいけないということを提言した本です。

国民のPRが大切

久木野 秋元先生にも所属していただいております「歯科技工士に関する制度推進議員連盟」の先生方のお力により、昨年4月、歯科技工士国家試験の全国統一化と、歯科技工士に係る医療職俸給表(二)の初任給基準表の改正が実現しました。本当にありがとうございました。

秋元 皆さまが長年取り組んでこられたことがようやく実現したということで、本当に良かったと思います。

歯科技工士がいなければ最終的な歯の治療ができないわけですから、歯科技工士の仕事というのは非常に大切です。そういった側面からすると、やはり歯科技工士の皆さんに誇りを持って良い仕事をしていただくた



秋元 司 衆議院議員

昭和46年10月 東京都生まれ
平成8年3月 大東文化大学経済学部卒業
【衆議院】
国土交通委員会理事
予算委員会
沖縄及び北方問題に関する特別委員会
【自由民主党】
国土交通部長

めに、今回、こうした法改正をさせていただいたのだと思いますので、ぜひこれからも社会のために頑張ってくださいと思います。

久木野 ありがとうございます。国民が健康で過ごすために歯科技工士はなくてはならない職業ですが、現状は歯科技工士学校への入学者が減っており、定員割れをしている学校も多いです。

現在、就業している歯科技工士の半数近くが50歳以上であることを考えると、この先、10年後、20年後には、歯科補綴物を国内で賄うことができなくなるかもしれません。

そのような中、日本歯科技工士会では昨年、『歯科技工のおもしろさ』という、主に高校生に向けた職業紹介の書籍を出しました。多くの若者が目指してくれるような職業になるように、引き続き先生方のお力も必要だと思いますので、ご協力お願いいたします。

秋元 入れ歯を入れなければいけない、あるいは詰め物をしなければいけないとなった時に、実は歯科技工士という職業の方が患者個々に合うように作っているのだということ、一般の人はあまりご存じないのではないかと思います。ですからまずは、歯科技工士という仕事はどういうものなのかを世間に広く知ってもらわなければなりません。

特に、私も以前、歯科技工所を視察させていただいたことがあります。歯科技工士の仕事というのは本当に巧みの技だなと感じました。そのように技術的な、物づくりの仕事なのだということを知っていただく機会をつくるというのではないのでしょうか。

健康について考えた時、私はやはり口がもっとも大切だと思っています。そして、物を食べるためには、歯がなくてははいけません。歯科医師会が取り組んでいる8020運動は非常に良い取り組みだと思いますが、では自分の歯がない人はどうすればいいかということ、歯科技工士がしっかりと個人個人にあわせた物をオーダーメイドでつくっている。そうしたこともあわせてPRできる機会を設けることが大切です。

それからもう一つ私が考えていることは、皆さんが普段から取り組んでいらっしゃる、入

れ歯への名入れについてです。入れ歯に個人情報を入れることによって大規模災害時の身元確認につながる。これは非常に素晴らしい方法だと思いますので、もっと広げていただきたいですし、歯科技工士がそうした活動をしているということを広く国民に知っていただきたいと思っています。

久木野 秋元先生には、江東歯科技工士会で義歯名入れ活動を行うたびに、よく視察にお越しいただいています。そのようによく気にかけてくださるので、江東歯科技工士会では若い会員も連盟活動に積極的に参加します。全国的にそのような組織が増えていけばいいと思います。

秋元 連盟活動というどうしても「政治」ですから、敬遠してしまう方が多いようですね。しかし、自分たちの身近な問題も含めて、要望したいことや改善したいことがある場合、それが法律や予算に関連するのであれば、やはりそこは民主主義の基本として、共に政治活動を行うことも必要なことです。そうすることで一つの意識改革になりますし、結果的に自分たちの思いを実現することにもつながります。

民主主義においては、自ら情報を発信するとともに自らも参画し、共に目的達成のために頑張ることが大切です。われわれ政治家は、積極的な発言をしない多数派、いわゆる「サイレントマジョリティー」の意見をどう酌み上げるかという努力をしますが、一方で、声を出していただいた方々のお力にもなりたいと思っています。

早期に物事を実現しなくてはいけないということを考えればなおさら、共に声を出して運動することが大切ですので、ぜひ若い方にも積極的に連盟活動にご参加いただきたいと思っています。

久木野 日本歯科技工士連盟は今後、歯科技工士学校の教育年限の延長、適正な製作を行うための歯科技工所の実態把握、歯科技工料が適正に支払われるための施策、この3つの課題に取り組んでいく所存です。最後に日本歯科技工士連盟の活動についてご意見がありましたらお聞かせください。

秋元 歯科技工士は歯科医師から仕事を受注しますから、どうしても「注文を待つ」というスタイルですね。そうすると、そこにはどうしても親子関係のようなものが発生してしましますが、やはり子は子としての世界をつくっていかねばならないのではないのでしょうか。

つまり、単に注文を待っているだけでなく、「この人に頼まないと駄目だ」と思われるようにブランド価値をいかに高めるか、いかに自分のフィールドをつくっていくかということにも、知恵を出し合って取り組んでいく必要があると思います。

私もまた皆さんといろいろと相談しながら、一緒に努力していきたいと思っています。

久木野 これからも先生を始め、いろいろな方々のご協力をいただきながら頑張っていきたいと思っています。引き続きよろしくお祈りいたします。

取材を終えて

鈴木日技連盟副会長 本日はどうもありがとうございました。皆さんはこれまで連盟活動を経験された中で、どのような問題点があり、どのような結果を得たと感じておられますか。

金田江東歯科技工士会理事長 昔から国会議員の先生方、都議会、区議会の先生方とのおつき合いという形がありましたが、単に選挙に絡むということだけで、われわれとしてもっとアプローチが足りなかったと思います。近年になって、江東の若手の会員も含めて、議員さんとより身近になりました。そのことで、行政に対する我々の存在というものが分かっていただけたようになっていったと思います。

鈴木 歯科技工業界が組織選挙を行ったこととの関係等はどうか。

久木野 中西氏の選挙のときは私も若手の役員としてできるだけ協力しました。そのときに歯科技工士会の持つ票数がはっきり出ましたので、結果として地元選挙区の国会議員の先生、区長、都議会議員に、江東歯科技工士会が何票持っているかを分かっていただくことになりました。

鈴木 現在の環境と将来の環境について、久木野さんは若い目線でどのように感じていますか。

久木野 これまで先輩方がいろいろおつき合いを長くしていただいて、それがつな

がって今があると思っています。現在は区長、都議会議員そして秋元衆議院議員、皆さんにとってもよくしていただいて、定例会や義歯名入れ活動には、一緒に視察に来られるときもあります。歯科技工士という職業、そして地元の歯科技工士会という組織のことを十分に理解していただいていると思いますので、とてもやりやすいです。そのおかげで、江東区行政の対応も以前とは全然違うものとなっています。

鈴木 どうもありがとうございます。他に江東歯科技工士会についてお伝えしたいことはありますか。

金田 江東歯科技工士会の現在の会員数は約90名で、退会者はほとんどいません。それはやはり、先輩後輩も含めて連携がうまくとれているからだだと思います。

現在は歯科技工士会の活動と連盟の活動という両輪がうまく機能していると感じています。これをわれわれの世代から、もっと若い世代に良い形でつなげていきたいです。

鈴木 横内会長にお聞きします。江東歯科技工士会は会員数が減っていないということですが、連盟活動を通じた社会認知が若い人にとってプラスになって、組織にも活性化を生み出しているという解釈でよろしいのでしょうか。

横内江東歯科技工士会会長 そうです。本会の活動と連盟活動のすべてにおい

て活発に活動しなければ、人は集まってこないと思いますが、江東歯科技工士会では、私たちが入会したころから先輩方がそのような環境をつくってくれています。うまく先輩と若手がミックスされていて、先輩方が若手を伸ばし育てていただいております。

若手を上から潰さないで伸ばしてあげて、会の活動をやりやすいようにやらせてあげるというのが、すごくうまくいっていますので、他地域にも自慢できる、辞める人が少ないとても良い環境の会だと自負しております。

鈴木 最後に、これからの江東歯科技工士会の目標を教えてください。

東京都歯科技工士会の連盟活動は、二度にわたる組織内選挙を経験したことで、社団活動と連盟活動をはっきりと峻別し、歯科技工業を取り巻く問題について行政への対応を組織分担して明確に各々の立場で取り組んでおります。

また、日技連盟組織内選挙で効果的な選挙活動をしたことにより、自由民主党東京都連にその活動が認められ、少なくとも5,000票を持つ職域団体として認識されています。

大きな活動としては、地域歯科技工士会で支援している国会議員の先生方をはじめ都議会自由民主党歯科技工関係政策研究会の先生方（議員連盟でないで枠の規定がなく自由民主党都議会議員は全員入っていただいている形になっております）と地域歯科技工士会の役員・都技連盟関連組織関係者と「新春の集い」を開催しております。こうした催事は、多くの都議会議員に出席していただきやすい環境であり、各地域歯科技工士会が支援活動で築いた親密な関係を他地域役員に広める活動を通して、都議会への対応を東京都歯科技工士連盟協議会として一体感を持って取り組む職域組織であると認められています。

このように地域と連携した連盟活動を行っている結果、東京都からの委託事業費等の増額要望が、都民のためになる活動であるとして都議会自民党で理解いただき、予算化していただくことが出来ました。

横内 歯科技工士会に魅力がなければ会員も増えないので、まずは会員が楽しんで参加できる会でありたいと思います。楽しければ気持ちにゆとりができて、一步一步前出る活気も出てくると思います。

会員を増やし、私たちの生活が安定して送れるように会を通じてより良い仲間を作り、日頃から情報交換などお互いに助け合い共有し合えるよう親睦を深め、仕事に反映していけるようにできればと思っています。

鈴木 本日はありがとうございました。今後も模範になるような連盟活動を期待いたします。



左から、横内正江東歯科技工士会会長、鈴木日技連盟副会長、金田江東歯科技工士会理事長、久木野江東歯科技工士連盟副理事長